

## 2025年度：4年生用 ゼミコースアウトライン（川原功司）

**授業概要:** 言語とは、構造に基づいた一連の音声の意味を持つ体系であると考えられます。言語は話し手と聴き手が一定の規則に従って運用することで、場面に応じた特殊な意味合いを持つようになります。たとえば、Yes/No 疑問文は相手に Yes か No かを尋ねる疑問文であると外国語学習では学びます。しかし、知り合いと一緒に食事に行ったという状況で、「そこのお醤油取れますか」という Yes/No 疑問文に対して、「はい、とれます」とだけ反応するような人は普通はいません（醤油差しを手にとって差し出すはずです）。また、同僚や友人に「お子さん、小さくてかわいいですね」と言われてもただの世間話のように聞こえます。しかし、反社会的組織に多額の借金を抱えており、なかなか返済できていないという状況下で強面のおじさんから「お子さん、小さくてかわいいですね」と言われると、なんだか剣呑な雰囲気が出てしまいます。他にも、「いつも賑やかでよろしいなあ」、「あんさん、ええ時計してはりますなあ」というのが褒め言葉であることもあれば、オブラートに包んだ嫌味である場合もあります（e.g. うるさいから静かにしてくれ、いい加減その長い話をやめてくれ etc）。週末と一緒に出かけしようという誘いに、「今週末、忙しいの」という返事が断りの意図である場合もあれば（来週末も再来週末もあなたが出かけようと言う日は忙しいの）、本当に今週末だけ忙しいという保留の意図である場合もあります（今週末はムリだけど、来週末なら）。

この種の、言語の字句通りの意味を越えて、場面や人間関係に基づいて特別な意味が生じる要因について研究する分野は語用論と呼ばれます。本ゼミでは、語用論に焦点を当てることで、言語コミュニケーションとは何か、言語とは何かという問題について一緒に取り組んでいきたいと考えています。2025年度は「感謝・謝罪」という発語行為や、笑いの構造などについて考える予定ですが、受講生に合わせてテーマを柔軟に設定していきます。

**テーマ:** 人に優しくしてもらったり、何かを手伝ってもらったりすると感謝の言葉を口にしたくなります。「ありがとう」も Thank you も Merci も感謝の言葉とされます。場合によっては「すみません」という謝罪の言葉が同じ機能を果たすことがあります。Brown and Levinson (1987) によれば、感謝と謝罪は Face Threatening Act という同等の行為に分類できるという分析もあり、両者の共通点を探ることもできそうです。しかしながら、こういった感謝という気持ちを口にしない人たちもいるようなのです。奥野 (2023) によれば、ボルネオ島のプナンと呼ばれる人々には、感謝の言葉も謝罪の言葉もないということが報告されています。また、自閉スペクトラム症の人々の中には、いつ感謝の言葉を口にすればいいのかなかなか理解できないという人たちも存在しています。それでは、感謝という行為はどのように定義できるのでしょうか。

また、語用論を利用して笑いの構造についても考えていきます。しゃべくり漫才などでは、「当然、これだけの情報を揃えれば適切なコミュニケーションが成立するだろう」と思われる条件を逆手にとって笑いに変えるという手法がよく用いられます。理解できるだけの情報を揃えているのに、「ちょっと何言ってるか分からない」と言うサンドウィッチマンの富澤さんや、「その特徴はもう完全に〇〇やろ」から一連のかけあいが始まるミルクボーイなどはその典型です。笑いにはある種の型があり、典型的なコミュニケーション構造をズラすという手法が用いられますが、それについて分析的に考えていきたいと思えます。